

せいらん人推協だより

発行者:晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会

第 8 号 平成 30 年 3 月 15 日発行

平成 29 年度事業報告について

晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会 会長 杉本 繁

早いもので、29 年度も残り僅かとなりました。昨年「せいらん人推協だより」の 3 月発行（第 8 号）は当該年度の実業報告として概要を掲載させていただいております。各研修にご参加いただいた方を始め、多くの方に支えられて事業を遂行しておりますが、課題も多く残されています。

人権とは同和問題だけではありません。女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、外国人の人権等、私達の身近にも多くの人権問題があります。

晴嵐学区としても「差別なく、誰もが安心して暮らしていける街づくり」には一人ひとりが人権を正しく理解して、人権尊重の意識を更に高めていく必要があります。今後も今回掲載の実業を継続し、充実してまいりますので自己研鑽の機会として積極的なご参加をお待ちしています。



地域人推協中南部会議研修会

平成 29 年 9 月 1 日（金）アヤハレークサイドホテルにおいて平野、膳所、富士見、晴嵐の 4 学区人推協合同で研修会を催しました。第 1 部の学区事業活動報告では、人権を考える大津市民のつどい「夏の集会」で「園児の発表を取り入れた」「戦争体験の語り継ぎ」「認知症をテーマにし他学区からの参加を受け入れた」等の開催様子をはじめ、各学区での事業報告がありました。

第 2 部では、滋賀県選出無形民俗文化財「富田人形共遊団」団長 阿部秀彦氏を長浜より講師に迎え、「多文化共生社会に向かって」～人形浄瑠璃がつなぐ国際交流から見えてくるもの～を講演形式で研修を行いました。

内容は阿部氏が自治会長の時（S53 年）、キラッと光る町づくり（20 戸 100 人程の村）として、江戸時代に伝わった「富田人形浄瑠璃」の再興に取組み、男も女もわけへだてなく演目の習得をされ、海外公演を重ねるまでに至る経緯や H13 年の海外公演の折、学生との交流から留学生の受け入れが始まり、まちをあげて 2 か月におよぶサマープログラムを実施されたこと。さらに「村の人に自信を持ってもらいたい」として始まった国際交流。違う文化・習慣の学生から互いの国を知りお互いが理解していくことや、1 体の人形を 3 人で動かす人形遣いを体験することで、「相手の気持ちに寄り添う」「他のひとと協調する」思いやりや、助けあうことを留学生の方にも感じとってもらえる等、一つの村ではじまった「草の根の国際交流」で、活性化する村と自分の生き方を発見する留学生の姿に感銘を受けました。また、お話だけでなく NHK で放映された『かんさい熱視線～日本のこころに挑む』を視聴し、その後、講師ご夫妻と息子さんによる人形浄瑠璃の演舞を解説していただきながら観賞しました。

第49回人権を考える大津市民の集い

【夏の集会】 今どきの子ども ～そのために大人（親）・地域は～

講師：辰巳 三喜雄 先生（東近江市学校問題対策支援員）

平成 29 年 7 月 8 日（土）晴嵐市民センター大ホールに於いて、東近江市教育委員会より辰巳 三喜雄先生を招いて開催しました。

講師の先生は東近江市で中学校の元校長、その後、滋賀県いじめ問題対策委員を経て現在の職責に従事しておられ、ご自身の豊富な経験で「今どきの子ども」について語っていただいた。

講演に入って直ぐにアイスブレイクとして数字遊びや漢字問題があり、参加者の緊張を和らげてから本題へと進んだことにより、講師に対する親しみやすさが出て大変良かった。また、

重要な点や理解して欲しい内容にはユーモアも交えてわかりやすく話をされ、参加者から好評であった。特に現在の子どもを取り巻く環境や問題点、そして親や地域での活動についても考えさせられ、本当の意味での子育ての重要性が認識できた。いじめや親の貧困からの人権問題など、今迄の問題点も根元から改善しない限り問題の解決にはならず、根っこの部分を考えていく重要性が理解できた講演でした。参加者は 154 名で、学区外からも来ていただき盛会に終了しました。



【秋の集会】 安心して暮らせるまちづくりをめざして

～地域と子どものかかわりについて～

平成 29 年 11 月 18 日（土）晴嵐小学校において開催しました。当日は 119 名の参加があり、5 会場の教室に分かれてサブテーマ「地域と子どものかかわりについて」に基づき、地域の方や学校園関係者等で意見交換や情報提供を行いました。

第 49 回人権を考える大津市民のつどい 晴嵐学区「秋の集会」

人権尊重を基盤とした個性と魅力あふれるまちづくりをめざして

日時：平成 29 年 11 月 18 日（土）

受付 9 時～ 当日の午後 7 時の時点で特別警報、暴風警報、濃霧警報のいずれかが発令されている場合、開催を中止します。

開会 9 時 30 分～11 時 30 分

場所：晴嵐小学校（上履きをご準備ください）

～テーマ～

「安心して暮らせるまちづくりをめざして」

サブテーマ：「地域と子どものかかわりについて」

テーマに基づき、親の立場や地域からの立場、校園からの意見交換を通じて、お互いの考え方を理解し、共有することを目的としています。どなたでも参加できますので、皆さんお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。



主催：晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会
問い合わせ先：人権協事務局（晴嵐公民館 TEL537-0743）

子供の成長には家庭だけでなく、地域との繋がりも重要視され、各学校園では挨拶の奨励も行われており、晴嵐学区でも学区民会議や社会福祉協議会であいさつ運動が続けられています。

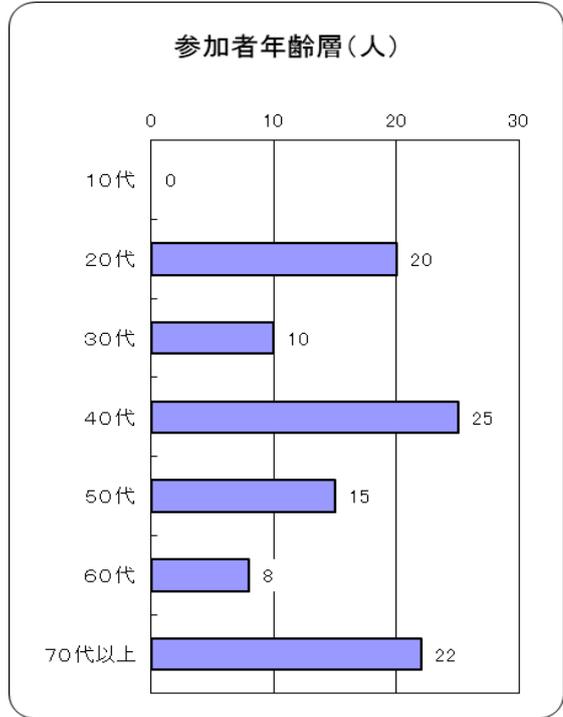
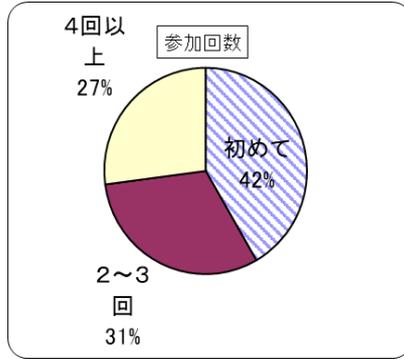
しかし、少子化や地域行事の縮小等により地域と子どもの触れ合うことが少なくなってきました。また、地域の大人から実践すべきマナーやルールも、一部の方によるお手本とは程遠いことも事実であり、歩きスマホ等、危険な行為が後を絶ちません。

早急に結論は出ないのですが、話し合いの中で学校園の取り組みや問題点、地域の取り組みや活動などを其々の立場で述べていただき、情報の共有や意識改革が出来たとのご意見も多くいただきました。今回も P3～P6 まで「秋の集会」でいただいたご意見やアンケート内容を特集しました。

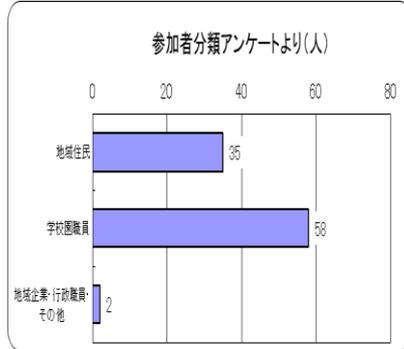
【アンケート結果】

参加者数 119名 アンケート回収 97名 (回収率 81.5%)

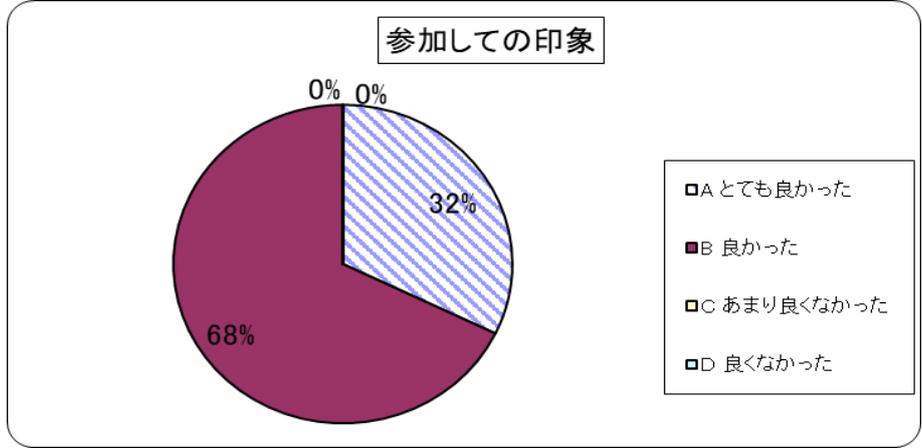
参加者年齢	
10代	0
20代	20
30代	10
40代	25
50代	15
60代	8
70代以上	22



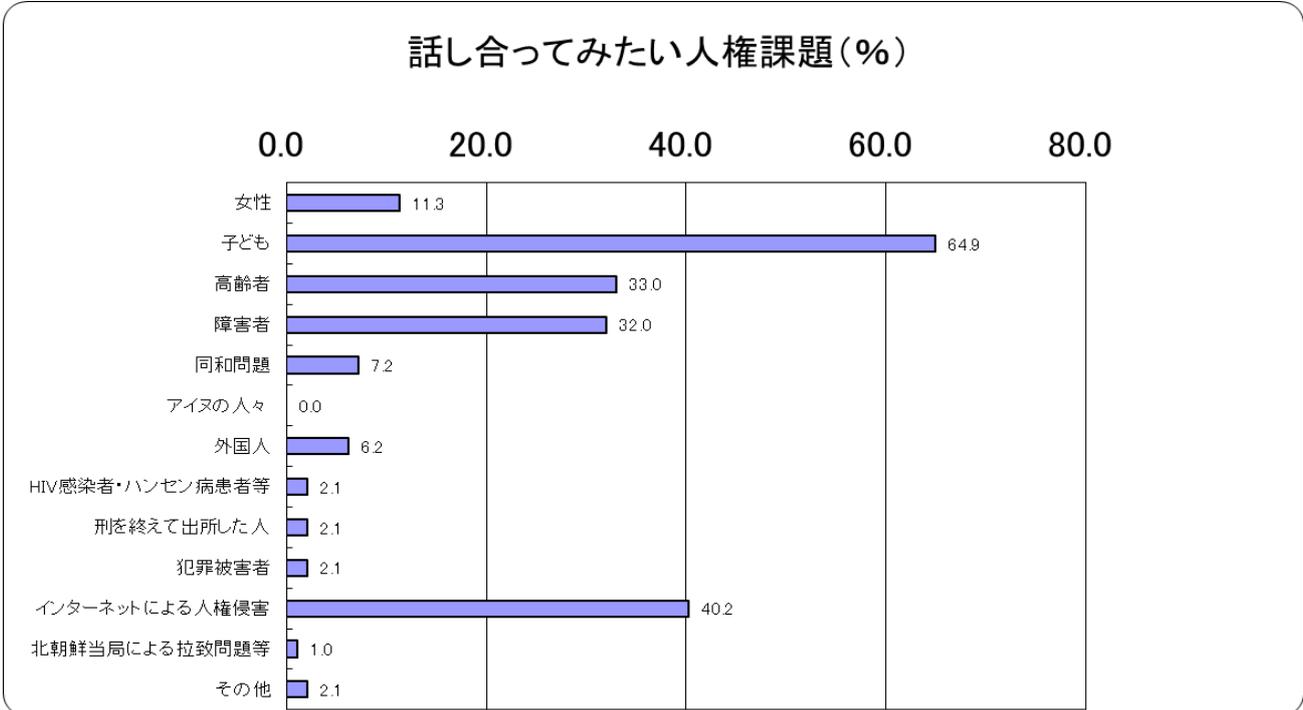
所 属	
学校園職員	58
地域住民	35
その他	2



参加回数	
初めて	40
2~3回	30
4回以上	26



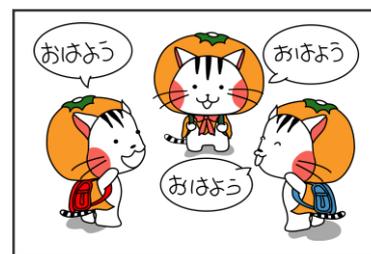
内 容	
とても良かった	28
良かった	59
あまり良くなかった	0
良くなかった	0



※同一テーマで会場ごとに話し合っていました。その内容の一部をご紹介します。

【第1会場】

- ① 参加者の子どもの時代と、現在の子どもでは、社会の様子や生活の仕方が違う。昔は縦のつながりがあり、まとめ役のリーダーがいたが、今は群れて遊ぶことが少なく、子ども同士のつながりが持ちにくいのでは。子どものつながりが、大人や地域とのかかわりを生んでいたが今は薄れている。大人もご近所付き合いが減っており、マンションでは隣の住民もわからない現状がある。
- ② 大人が良い見本を見せられない。スマホなど大人が見ながら歩いている光景もあり、信号無視など子どもの見本になっていない。
- ③ メディアでパターン化されたイメージが強い。メディアの中で「不審者」という言葉が多く使われ、子ども達も人に対する信頼感や、どの人が良くて、どの人は気を付けなければいけないのかの見極めがむつかしく、学校園や各種団体であいさつ運動をしているが、家庭では知らない人には声をかけてはいけないと教えるケースが多い。
- ④ 幼少期のうちに地域とのかかわりをしっかり作ることが大事。中学・高校と大きくなって突然に地域とのかかわりを持つのが難しいため、幼少期のうちに地域の中で顔見知りを作り、声を掛けられる子どもや大人を沢山作ることが大事。また、自治会行事に積極的に参加をしてもらうためにも、その様な場を設けることが自治会の充実となり、地域の活性化となる。



【第2会場】

- ① 高校生や中学生の保育実習、職場体験等を通じて色々と学んでいる。また、学校園ではあいさつ運動は積極的に取り組んでおり、他学年との交流も生徒や児童の立場でお互いが刺激を受けている。
- ② スクールガードさんより声をかけていただき、子ども達も安心できる人（大人）としてあいさつを交わしている。また、スクールガードさんは大人にも声をかけていただき、笑顔で挨拶する事で一日が気持ちよく過ごせる。
- ③ 園児の散歩で、地域の方と出会ったら声をかけていただく事が多く、保育士も地域の方に出会ったら挨拶をしており、その姿を見て子どもたちも積極的に挨拶するようになり交流が持てている。



- ④ 昔はラジオ体操で大人も子どもも参加して交流を持てたが、今はかかわりが少ない。
- ⑤ 子どもが小さいときだけ地域の行事に参加するための自治会加入で、大きくなると自治会から脱会するケースが多い。そんなことでは地域との交流も少なくなるので、子どもの成長とは関係なく、自治会を継続して地域の活性化のため大人が頑張る欲しい。

【第3会場】

- ① 挨拶を自ら行う子ども、言われたら挨拶する子ども、色々であるが挨拶を行う子供が増えてきた。卒業した生徒が地域や電車の中であった時も自ら挨拶をしてくれる。地域での取り組みが実を結んでいるのではないか。
- ② 地域のスクールガードさんを見ていると、笑顔で挨拶をされている。それが子ども達の中に残って、自分から挨拶を行えることになっているのでは。
- ③ 今の時代は競争社会で、やらなければならない状況。周りを見て子ども自身が塾に行かなければならないと感じたり、親は行かせておけば安心と感じたりしているのではないか。そのような時代ではあるが、子ども達がかawaiiそうと感じる。
- ④ 塾に行って地域の集まりには出てこない。できるだけ地域事業をアピールして、昔ながらの伝承や地域の絆の大切さを教えたい。保護者のモラルが子どもに影響するため、大人の意識が大切である。



【第4会場】

- ① 昔は子どもが悪いことをしたら叱ってくれる大人がいたが、今はどうか？子どもを感情で怒るのは良くない。愛情をもって育てることがとても大事である。
- ② 子どもは自分で考えて答えを出す時間が必要で、それが「自信」や自分で考える力に繋がると考え、定期的に子どもと向き合う時間が必要である。
- ③ 子ども達は「怒られるからする」のではなく、「何故それをしないといけないのか」を考えさせたい。子どもは大人の背中だけでなく、友達の姿も見て育っている。
- ④ 子ども同士のトラブルは家庭に連絡しているが、保護者から「これぐらいのことで電話するの？」と言われることがあるが、家庭との連携は必要と考えている。
- ⑤ 大切なものは「愛情」「適切な声掛け」「集団生活における常識」「人間関係づくり」「信頼関係」「共通理解」「コミュニケーション」

【第5会場】

- ① 他学区の者から見ていると、晴嵐学区は祖父母が近隣にいる家庭が多く、子ども達は素直に育っていると感じる。
- ② 小さい子というより、高学年の児童や中高生がよく挨拶をしてくれる。中学生ぐらいから思春期に入るが、小さいころからのつながりがあると挨拶ができる子が多い。
- ③ 公園が狭く、「〇〇をしてはいけない」「大声を出してはいけない」などの制限が多く、外遊び離れにつながっている。また、家庭内ゲーム機のスポーツ疑似体験で遊ぶ子どもたちが多い。
- ④ スポーツ少年団で指導しているが、叱ると不快に思う保護者もいる。このご時世、どこまで叱っていいのか考えるし、子どもとのかかわりもどこまでしてよいかわからない。知らない子どもに対し、挨拶や声かけも子どもから見たら不審者にあたるのではないかと心配もある。

※ 秋の集会のアンケート用紙で、「その他のご意見」を記載していただきました中から、ほんの一部ではありますがご紹介します。

*子どもが育つ環境と周りの大人の現状をよく知れた。大人がつながりを十分に持てていないことに、子と大人はつながらないと思った。「仕事」が忙しく、「家庭」で過ごす時間が少ない。家庭で学ぶことが少ない。親も家庭でゆっくりと過ごす事が減った。そんな世の中だからこそ、簡単なところの積み重ね（挨拶）で少しでも家庭・地域がつながることから始めたいと思った。

（20代 学校園職員）

*地域の人と新しいつながりが出来て、とても良い機会となりました。子どもだけでなく、大人同士も知り合ったら、長い付き合いをしていくことで、子どもにも何か変化があるのではないかと感じました。

（20代 学校園職員）

*いろいろな立場の方からお話を聞くことが出来て、とても勉強になりました。貧困や虐待が子どもにも与える影響の大きさを感じました。一人ひとりの子どもが自分に自信をもって、心身共に成長して欲しいと思います。その為に地域のつながりを大切にしていきたいです。

（40代 学校園職員）

*初めての参加です。日々、子どもさん達と関わっていらっしゃる方々との温度差を感じます。地域の者は行事とかで接点を求めないと中々かかわれませんが、親から子どもに何かあったらとか神経質な保護者等、色々おかしい点が多々あります。子ども達は地域のいろいろな楽しい行事に参加したいのではないのでしょうか？参加することで子どもさんの良い思い出と地域の方々とのかかわりが増えると思います。

（60代 地域住民）

*地域の年配の方が積極的に課題を出していただき、それに応える形で校園の参加者も意見交流が図られ、有意義な時間となった。大切なキーワードは「愛情」でした。

（50代 学校園職員）

*私自身、子どもの頃は転勤族で、あまり地域の行事に参加したり、かかわった記憶がありません。5年前にここ晴嵐に引っ越してきて、とても地域とのかかわりが深い学区だと感じます。今年は組長・PTA役員をやる機会があり、大変なこともあります。私自身が地域の方と楽しくかかわる姿を子どもたちに見せて、地域とのかかわりの大切さを伝えたいと思いました。

（40代 地域住民）

*参加されているのは意識の高い方が多いので、二極分化が今後の課題になると思います。普段参加していない方が参加したくなるような会（言ってみようと思う会、行って良かったと感じる会）にすることがこれからの課題となるでしょう。難しいですが。

（50代 学校園職員）

*久しぶりに教育についていろいろな人と話ができて、いい時間となりました。話すことでほっとしたり、安心できるのは大人も子どもも同じですね。何でもないことでも「話せる、聞いてもらえる」場所って大切ですね。それが学校、家、スポ少、みんなの食堂など、どこでもそういうほっとする場であるといいですね。

（40代 地域住民）



晴嵐学区 人推協・社協合同研修会

平成 29 年 12 月 7 日（水）に社会福祉協議会と「人権・生涯」学習推進協議会による合同研修会を開催しました。

今年、東近江市社会福祉協議会を訪ねました。『老いても安心“楽しく”暮らせる永源寺』を目標に、「永源寺地区住民福祉活動計画」が立てられています。

永源寺地区は、自然豊かなまちですが、高齢化が進み地域の活動や文化、食生活など伝統を継承していくことが難しくなってきました。そこで、若い人たちが暮らしたいと思える場づくり、多世代を巻き込んだ居場所づくりなど「見守り・集える場」を考え、進めてこられました。



永源寺の魅力再発見の機会（永源寺塾）、地域に活動情報を発信（回覧版ふるさと便プロジェクト）住民協働で新特産品（特産品づくり）など、「住めば都プラン」が平成 24 年度から進められています。特に、生活支援では困ったときには助け上手、助けられ上手のお互い様まちづくりをめざし、「生活支援サポーター養成講座」が開催されて、人のために動き出す方が増えているそうです。

住民の思いの詰まった計画を進めていこうとする若いスタッフの方のお話を聞かせていただき、地域で話し合い、各種団体と協力しながら一步一步現実のものにされてきたことに感心いたしました。福祉事業も「できることから」「何かしたい」をスタートにサポーターができるとのこと。わが晴嵐でも多くの方の思いを聞かせていただき、できるところから進めていきたいものです。そのための基盤となる組織や事業を今一度考えてまちづくりを進めるためには良い研修の場となりました。

晴嵐学区 人権講座

平成 29 年 12 月 23 日（土）10 時から晴嵐市民センター 3 階ホールにて本年度の晴嵐学区人権講座を開催しました。講師には近畿大学文芸学部准教授の前田益尚氏をお迎えし、「私の楽天的闘病論」～ガンとアルコール依存症からの克服～という演題で講演をしていただきました。お話の概要は以下のようなものでした。

講師は厳格な父の影響で失敗を恐れる内気な性格となり、大学生になってアルコールが入ると堂々とふるまえることに気付いてから、飲み続けないと学校生活を送れなかった。1999 年、35 歳で近畿大学の専任講師に着任したころにはアルコール依存症は深刻な状態で、依存症をごまかしながら 2004 年に准教授になったが 13 年末に教壇に立てなくなってしまったということです。その間、重度の下咽頭癌を患ったものの良い医師と巡り合いなんとか声を失わずに済んだが、10 か月という長い入院期間があつたにもかかわらず依存症は治らなかつたそうです。その後職を失いかげ、ようやく入院して依存症の治療に取り組み断酒会にも足を運ぶようになって、現在も治療中ですが職場復帰はされているとのこと。その体験を踏まえて、現在の講師の願いは多くの人に依存症の怖さを伝え、病気への理解を広げ、回復を目指す人の力になりたいとおっしゃっておられました。

当日の参加者数は地域の方や校関係者など 47 名で、講演内容は深刻なものであつたにもかかわらず、講師のユーモアを交えた話しぶりと、なんとかしてアルコール依存症に苦しんでいる人を救いたいという熱い思いが伝わり、参加者はしっかりと学ぶことができました。

晴嵐学区 人推協役員県外研修会

平成 30 年 2 月 28 日 (水) に「平成 29 年度晴嵐学区人推協役員研修会」を開催しました。研修会は、午前:近江八幡市内・午後:沖島という日程で 23 名の方々にご参加いただき実施しました。

午前中の研修会は、近江八幡市立八幡子どもセンター(以後センター)を会場に、フィールドワークを含む「八幡町の街並みと施設を巡る」という内容で行いました。午前 10 時にセンターに到着し



ました。センターでは、午前中の研修会講師の池元さんと合流し、最初にフィールドワークを行いました。八幡靴工房・コトワ靴製作所の現地研修では、講師の方より八幡靴の歴史と現在についてお話がありました。参加者は、オーダーメイドである八幡靴の製作工程に興味を持ち、積極的に質問されていました。(購入希望者があるかも!) 願通寺では、人間平等をめざす部落解放・同朋運動の実践に取り組まれた仲尾俊博和上の貴重なお話を拝聴しました。その後、センター会議室に戻り、池元講師より、過去の史実に基づく八幡町の悲しい出来事や、その中から生まれた住民の共助や感謝の心などのお話をお聞きしました。参加者は、改めて人権教育の難しさを再認識するとともに、自分のこれからの行動力が問われていると、身にしみて感じる意味深い研修会となりました。

午後からは、沖島へ船で渡り、民宿・湖上荘の方より沖島の歴史と住民の生活や、過疎化問題等、人権と今後の課題について伺いました。沖島住民のルーツは源氏に関係のあることや、島内にある小学校の在籍児童 20 名の内 18 名は島外から通ってきているなど興味のある内容でした。そして、帰りに沖島港にある直売所で、鮎ずしやスゴモロコの甘露煮など、今夜の食卓の逸品を購入し帰途につきました。

後になりましたが、今回の研修会実施にあたり、準備の段階から全面的なご理解とご支援をいただきました近江八幡市教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。



人権啓発シンボルマーク
[人権 = 心のマーク]

【編集後記】

1 年間の事業も終わり、4 月からの新年度に向けて日々多忙の中、第 8 号を発刊することが出来ました。今回号の編集を通じて、研修内容を振り返ることになり、時間の経過が早いと実感しました。また、多くの方から貴重なご意見を賜りました。学んだことを実践し、気持ち新たに新年度に向けて頑張ってまいりますので、皆様のご支援と、今後の研修会参加をお待ちしています。

その他、ご意見・ご要望がありましたらご連絡願います。

晴嵐学区「人権・生涯」学習推進協議会
電話 5 3 7 - 0 7 4 3 (晴嵐公民館内)